

皆様いかにお過ごしでしょうか？三寒四温と言いますがこの時期は寒暖の差が激しくなる時期です。どうぞ体調管理に御互い気を付けてまいりましょう。

ところで先月の「元プロ野球選手 清原和博、覚醒剤取締法違反で逮捕!」の事件は日本中に衝撃を与えました。私の2学年歳上で甲子園では華やかに活躍、その後もプロ野球界の中心人物であった姿を鮮明に思い出せるだけに残念でした。さて私は彼が逮捕されたその夜、あらゆるメディアがその報道をする中でも彼自身の逮捕前インタビューを受けた時のコメントが気になりました。そのコメントの内容は現役引退後の自身の心中を語ったものでした。「現役時代はいくら周りから非難されてもホームラン一発で解決した。ホームランを打つことを一番の目的として日々頑張った。しかし引退後はなにを目的として生きていけばいいのかわからなくなった。そのうち生活も乱れて行った・・・」というようなコメントでした。高校時代からホームランバッターとして注目され

た彼らしい言葉ですが、このコメントを聞いたとき私はふともう一人のスポーツ選手を思い出しました。大相撲で初場所10年ぶり日本人力士として優勝した琴奨菊関です。彼が大関昇進のとき発した言葉が「相撲に感謝」というもので、とても印象的でした。この言葉が出るまでのエピソードがあります。

琴奨菊関は以前大関昇進直前の場所で〔5勝10敗〕という成績で負け越した経験があります。その成績があまりにも不甲斐ないものでありそのショックで今までにないほど悩んだそうです。そこである人の紹介でスポーツ心理学の有名な先生に相談に行きます。そこで診断の結果先生から告げられた言葉は「あなたはここ一番になると動きが硬くなる傾向があります。それもアマチュアレベルです」そしてその改善方法として毎日深呼吸することを日課にするよう勧められたそうです。彼が塩を捲く時に体を大きく反らす動作はここから来ているそうです。その後、先生の指導に従い毎日頻繁に深呼吸を行う日々

の中、気分転換に母校相撲部の後輩たちの稽古を見に入ったり監督といろいろ話をしたりする中であることを思うようになります。「今までは目先のこと、ただ勝ことしか見ていなかった。しかし振り返ると自分が今プロで相撲が取れているのもいろいろな人の支えがあったからだなあ。なにより相撲自体が今の自分を育ててくれた・・・」

「相撲に感謝」

このように思えるようになってその後不思議と成績を残せるようになったそうです。今回逮捕された清原元選手の事件には非常に閉ざされた心を感じます。それに対し琴奨菊関の「相撲に感謝」という言葉は開かれた心を感じます。

さて、浄土真宗は「一切衆生、善人も悪人も必ず救うと誓っていつでも一緒にいて下さる阿弥陀様のお慈悲に感謝する教え」です。この仏様のお慈悲はひとつも罪を告げません。究極の救いです。そこは我々の考えを超えた無限の救いがあります。その救いに感謝するのが浄土真宗です。

南無阿弥陀仏